

8 歴史・地理・公民(社会科学科目)

①歴史(Sejarah)

*「歴史」は2018年までは、中等学校以上から学習する科目でした。かつてのマレーシアの中学校の歴史教科書は、1941年12月8日の「日本軍のコタバル上陸」から始まっていました。このことは、それまでの英国による植民地支配が旧日本軍の侵攻によって崩され、1942～1945年までの3年8か月間日本軍の占領下におかれた後、1945年8月の終戦を期に、再び戻って来た英国の植民地支配下(英領マラヤ)から「マラヤ連邦」の結成を経て、1957年の独立に繋がる流れから、マレーシアという「国家」の歴史は始まった、という認識の表れといえます。

*やがて2019年に、後述する「公民と市民性の教育」が科目としては廃止され、公民分野の「シティズンシップ(市民性)教育」は、授業では「国語」「英語」「イスラーム／道徳」そして「地域科」から歴史分野が独立して導入された「歴史」の中に吸収されることになり、現在では、小学校の4年次から学び始めるようになっていきます。

小学校で新たに開始された歴史の教科書では、それまでほとんど記述がなかった、先史時代から、古代～中世の旧王国の興亡や、イスラームの伝来、近世の英国植民地化、華人系やインド系の移民の歴史など、第2次世界大戦以前の歴史も記述されるようになりました。そして独立以降、多文化・多民族の新しい国家としての政治・経済・文化・教育・社会・国際関係等の歴史を学び、自分の母国であるマレーシアに愛着と誇りを持ち、児童・生徒の国民としての意識を涵養することを目指しています。そのため、6年生の教科書では、「マレーシアと世界」という単元で、ASEANや国連等との国際協力の現状や今後の在り方について学ぶなど、中等学校以降の「政治経済」等の科目の学習に繋がるような単元もあります。

②地域科(Kajian Tempatan)

「地域科」は直訳すると「地域研究(Kajian＝研究、Tempatan＝地域)」という意味で、2004年までは日本でいう社会科にあたる地理・歴史・公民的内容を学習する科目でした。その後、2005年から公民分野にあたる「公民と市民性の教育」がシティズンシップ(市民性)教育の内容を引き継ぎ、中等学校以上の科目であった「歴史」も、2010年代に小学校から開始される科目に変更されるなどの紆余曲折を経て、現在は地理分野の学習を主に担っています。なお、「地域科」は日本の「社会科」同様、小学校だけに導入された教科で、中等学校以降は地理・歴史・政治経済・公民などの各教科に分かれて学習が進められます。

*1995年の小学校4年次から開始され、現在では初等教育の4～6年生で教えられています。それまでは1985年から1994年まで「環境と人間(Alam dan Manusia)」という理科・地理・歴史・公民の合科科目(日本では生活科に近いもの)が行われていたのですが、子どもの理科や地理・歴史・公民の学力が低下したとの批判を受け、1995年の4年生から漸次、「環境と人間」は、科目統合以前に独立した教科として存在していた「理科」と、新教科である「地域科」に再分割されました。

*4年生では、家族や学校など自分の身近な社会から始まり、5、6年と学年が進むにつれて、地方や国の特徴や世界との関わりや、地理・歴史・政治・経済などの諸分野の基礎を学びます。また、多民族多文化の複合国家マレーシアらしく、各民族の習俗の特徴や文化・宗教の多様性とその尊重に関する学習や、マレーシアの国民として共生することの大切さなどについても多くの章が割かれています。

③公民と市民性の教育(Pendidikan Sivik dan Kewarganegaraan)

*「公民教育」は 2005 年に、小学校4年次と中学校1年次から導入された科目です。直訳すると「公民および市民権の教育(Pendidikan = 教育、Sivik = 公民、dan = ~と~、Kewarganegaraan = 市民性・市民権)」という意味で、「地域科」から引き継いだ公民分野の内容と、社会生活に必要な道德・倫理的な要素を総合的に学習します。なお、「公民教育」という訳語は、中国語版教科書の教科名呼称です。

*後述の「イスラーム教育(Pendidikan Islam)」と「道德教育(Pendidikan Moral)」の項でも触れますが、マレーシアの学校では、価値教育としてマレー系の児童・生徒は民族の宗教である「イスラーム教育」を、華人系・インド系などの非マレー系の児童・生徒は「道德教育」を行っています。しかし 2003 年、マレーシア教育省において「全ての民族の児童・生徒に共通の価値教育を実施し、国民統合を推進するための新しい教科を導入する」ことが決定し、2005 年から「公民教育」として導入されました。

*この教科の内容は「地域科」における公民分野や「道德教育」の内容を併せ持っており、自分-家族-学校-地域-国家という、同心円的な社会の広がりに合わせて、子どもたちは各コミュニティの一員=市民としての責任や道德的価値などの「市民性(シティズンシップ)」を学んでいきます。また、これも「地域科」と同様、各民族の習俗の特徴や文化・宗教の多様性の理解と尊重、同じマレーシアの国民として、民族同士助け合い協力して行くこと、そして市民としての権利と果たすべき義務などについて学ぶようになっています。

*同科目開始から8年後の 2013 年に小学校段階、さらに 4 年後の 2017 年に中学校段階における同科目の授業が、順次停止され、2019 年から、独立した科目としてではなく、教科横断的な学習スタイルによる「市民教育(Pendidikan Sivik)」として新たに再編されました。具体的には、マレー語 (Bahasa Melayu)、英語、イスラーム教育/道德教育、歴史の各教科の中に公民的な学習要素を含めたカリキュラムに再編し、生徒集会 (perhimpunan/assembly) や課外活動 (aktiviti ko-kurikulum/ extracurricular activities) の時間、さらに、学校外の地域社会、民間企業や NPO、および各省庁が関与する校外学習や社会奉仕活動等も活用した、「市民的実践 (amalan sivik)」を重視する公民教育へと変更されています。このように、「教室内 (dalam bilik darjah) での学習」として、「市民」としてのリテラシーを、先に挙げた5つの各教科の横断的な学習を行う (60 分 = 2 コマ)。さらに「教室外 (Luar bilik darjah) での学習」(30 分 = 1 コマ)として、地域や民間企業などのグループも、学校で学ぶ「市民としての価値観」を促進する、といった、新たな市民性教育の形が始まり、模索されています。